

これまでの実績 (2022-2025)

○2022年:連携相談 65件 (成約率75%)

共同研究 7 受託研究 5 受託事業 9 連携事業 28

○2023年:連携相談 71件 (成約率86%)

共同研究 11 受託研究 8 受託事業 10 連携事業 32

○2024年:連携相談 68件 (成約率76%)

共同研究 8 受託研究 6 受託事業 9 連携事業 29

○2025年:連携相談 85件 (成約率84%)

共同研究 12 受託研究 9 受託事業 9 連携事業 41

お問い合わせ (連携相談窓口)

「こんなことできないか」から、お気軽にご相談ください。

北近畿地域連携機構(Kita-re) リエゾンオフィス

〒620-0886

京都府福知山市字堀3370
福知山公立大学1号館2階事務局

0773-24-7151

0773-24-7152

kita-re@fukuchiyama.ac.jp

<https://www.fukuchiyama.ac.jp/kitare/>

北近畿コラボスペースの 会員登録はこちら(会費は当面無料)



登録申請用QRコードです。
※申請から登録完了まで
3~5日程度かかることがあります。

北近畿コラボスペースとは

「slack (スラック)」というチャットツールを使い、Web 上で意見交換・情報共有を行うことができる新しい形の産学公連携組織です。オープンで簡単につながることによって新しいアイデアが生まれることを目指します。



Kita-re

発行:京都府北部連携都市圏形成推進協議会、北近畿地域連携機構(Kita-re)

製作協力:福知山公立大学

北近畿地域連携機構(Kita-re)活用ガイド

まずは相談から。 大学連携のはじめかた



小さく始めて、成果につなげる。

例えば、こんなご相談から連携が生まれています



自治体・企業の方
業務改善や新規事業に
専門的な知見を入れたい



教育・学校関係者
探究学習の高度化や
教員の研修をお願いしたい



地域団体・住民の方
地域の歴史の継承や
課題解決に取り組みたい

発行:京都府北部連携都市圏形成推進協議会、北近畿地域連携機構(Kita-re)

製作協力:福知山公立大学

発行年月:2026年3月

連携相談は、こう始める

北近畿地域連携機構（Kita-re）は、福知山公立大学の附属機関として、北近畿地域の知の拠点となり、地域と協働しながら課題解決と新たな価値創出を進めるための実務の窓口です。福知山公立大学は「市民の大学、地域のための大学、世界とともに歩む大学」を基本理念に掲げています。こうした理念のもと、地域の相談を受け止め、連携を具体化する入口として機構を設けています。

機構には、相談の入口となるリエゾンと、連携が進む過程を支えるオンラインの北近畿コラボスペースがあります。まずはリエゾンで相談を受け、連携に発展したら北近畿コラボスペースをプラットフォームとしてやり取りを進めます。

リエゾン(相談窓口)

地域(自治体・団体・企業など) > [相談] > リエゾン(相談窓口) > [調整・選定] > 大学内の関係者(教職員・学生)

- 困りごと・アイデアの受け付け(ワンストップ)
- 教員・学生・企業等のマッチング(学内調整)
- 論点整理と進め方の設計
- 連携に発展したら:北近畿コラボスペースでやり取りを継続

※ご相談内容や学内の状況(教員の専門分野や学生の関心等)により、ご希望に沿ったマッチングに至らない場合もございます。その際も、課題整理のサポート等を通じてお力になれるよう努めます。

北近畿コラボスペース(コミュニケーションツール「slack」を使った情報交換)

やり取り(情報共有、相談の深掘り、関係者の追加) > 新たなきっかけ(交流会・イベント、テーマの派生、協力者の発見) > 発信(成果共有、参加募集、取組の見える化)








- 関係者間のやり取り・情報共有の場
- 成果や取組の発信ツールとしても活用
- 定期的にオフラインの交流会を実施

参加:大学関係者(教職員・学生)/自治体関係者/企業など 規模:会員数 400名以上/連携団体数 80団体以上(2026年3月1日時点)

ユニット(学内外のメンバーからなるプロジェクト)

ユニットとは、本学教員を中心に学内外の関係者とチームを組み、地域課題の解決や新たな価値創出に取り組む地域連携の実践的な活動組織です。自治体、企業、団体、市民など多様な主体と協働し、調査研究や実証、イベント、技術開発などを通じて地域に根ざした取り組みを推進します。

相談の始め方 ※課題が固まっていなくてもご相談可能です。

 依頼者	 相談概要 (困りごと、一緒にやりたいことなど)	 依頼したい相手 (対象者、専門分野など)	 期間・回数など (いつ頃から、いつまで)
 分かる範囲で上の4点を書いて送る	 状況整理からでもOK	 事前にご連絡ください(オンライン可)	

相談から実施までの流れ

- 1 相談する
- 2 課題を整理する
- 3 体制をつくる
- 4 小さく試す
- 5 成果をまとめ次へ

連携事例



自治体との連携

自治体DXワークカレッジ

自治体の「業務を改善したい」という相談から企画がスタート。講師調整や運営を大学が行い、生成 AI やデータ活用を「明日から使える形」で学ぶ場をつくりました。

企画 講師調整 運営 振り返り



情報学部

AIを活用した探究活動支援

高校の「探究活動を高度化したい」という相談から連携へ。AI を用いた鳥の個体数カウントシステムの開発支援や、プログラミング指導を行いました。

課題整理 マッチング 進行調整



地域経営学部

歴史を継承する村史編さん

「地域の歴史を次代へ継承したい」という相談から連携へ。詳細な史料調査をもとに地域の歩みを紐解き、地域への理解と愛着を深める新たな村史の編さんを支援しました。

関係者調整 専門的助言 進行管理



先端技術・設備の活用

FabLabを活用したデジタルものづくり

商工会議所からの依頼を受け、地域企業向けに大学のデジタル設備 (FabLab) を活用した講座を実施。試作や製品開発に向けた実践的な学びと交流の場を創出しました。

企画・調整 講座運営 実践支援



ユニット事業

NEXT産業創造プログラム

産学官が連携し、社会人の学び直しを通じた起業家育成プログラムを実施。起業に必要な知識を学び、地域で挑戦する人材の輩出を目指します。

企画・開発 関係者連携 講座運営



ユニット事業

学校組織レジリエンス

教育機関が変化に柔軟に対応する「レジリエンス」を育むため、大学と教育現場が連携。教員の職能開発や組織の課題解決に向けた支援を展開しています。

職能開発支援 組織課題解決 研究連携